

# 現代



桜井神社稚児行列  
毎年秋祭として流籠馬神事と  
稚児行列がおこなわれる



野北須賀神社に伝わる勇壮な野北祇園祭  
毎年7月13日におこなわれる



芥屋の風止め奉納相撲  
毎年9月1日におこな  
われる



二見ヶ浦注連縄掛け折願  
縄の中には折願書が  
ない込まれている



長さ30メートル、  
重さ約1トンの大注連縄を  
60余人の氏子奉納者によって  
夫婦岩にかける  
毎年5月初旬におこなわれる



桜井神社境内で  
毎年1月10日におこなわれる  
「もち押し」  
厄除けを祈願する  
伝統行事

# 現代

野北の魚売り  
起源は秀吉の時代、落城した  
高祖城主原田氏の娘婿が野北浦に逃れ、  
始めたという（昭和27年秋）



空から見た野北漁港  
彦山には多くの山畑があり、山越しに西浦、  
玄界島が見える（昭和30年ごろ）

雷山川下流域で  
小富士と加布里を結ぶ弁天橋  
小富士側には名物の大松があった  
（昭和30年代 写真提供：糸島新聞社）



船越の集落  
引津湾をへたて可也山を仰ぐ  
船を引いて越したので船越という  
（昭和27年8月）

# 近代



農会主催で盛大におこなわれていた競草会  
深耕技能の向上・習得とともに農家の交流の  
場でもあった昭和14年の小富士村



日照りが続き早稲の兆候が表われると  
雨乞い歌や踊りを奉納し、降雨を願った  
井田原の早稲祈念（昭和14年9月7日）



船後の村は女性が守った  
戦争が激しくなると競草会の主役も女性に  
なっていった



小富士村に発足したローマクラブ  
御床などの文字が読み取れる



大正6年7月20日の  
糸島新聞（糸島農業新聞）  
創刊号（糸島新聞社蔵）

# 調査編



巻物は特に注意が必要



大学生の協力を得る



老人クラブの  
協力を得た民俗調査



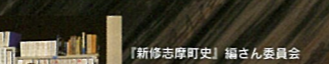
表題をつけ整理



整理前の状態



烏帽子灯台の  
建築物調査



「新修志摩町史」編さん委員会



「新修志摩町史」編集委員会



桜井神社絵図

次頁からは、『新修志摩町史』の全目次を掲載しています。  
本編は、上巻・下巻、付録（図三面）から成ります。上巻は自  
然・原始・古代・中世・近世・近代、下巻は現代・行政・文化財・  
生活文化の計十編で構成し、付録としては、志摩地域内の小字名・  
記録や伝承による干拓の歴史、および小富士海軍航空施設配置概  
要図・「筑前国嶋郡川邊里戸籍」にみる肥君猪手の家族構成の図三  
面を収めています。  
執筆にあたっては、志摩地域の地理的、歴史的背景にかんがみ、  
現在の志摩町域から若干範囲をひろげ、糸島半島（旧志摩郡）を視  
野に入れています。そのなかで、時系列的に原始から現代までを記  
述し、特に行政・文化財・生活文化の編を設けて詳述しました。

# 現代



木造平層建ての志原中学校  
現在の校舎敷地が、  
グラウンドであった  
（昭和30年11月）



可制施行時の志摩町役場（昭和40年）



昭和33年に発足した志摩村青年建設班  
戦後の荒廃、混乱期を青年たちの力で  
乗り切ろうと発足した



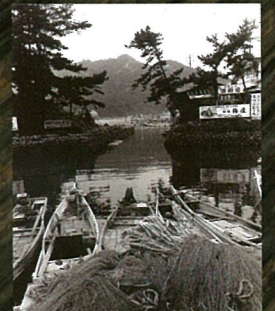
約2ヵ月の集団生活の中で、  
技術の習得や学習、集団生活を体験した  
班員は規定により25名とされた



一同志親和、一日々推新、一練磨協力、  
一興村寄与 若者に志摩の未来が託された



芥屋大門頂上から可也山を望む  
映画の舞台にもなった玄武岩の磯や  
浜小屋も見える（昭和27年8月）



風情のある旅館街の掘割り  
芥屋大門遊船場の看板も見える  
（昭和40年代初頭）



船越線のバス開通を祝う  
地元の人たち（昭和34年4月）  
（写真提供：糸島新聞社）